三重の自然

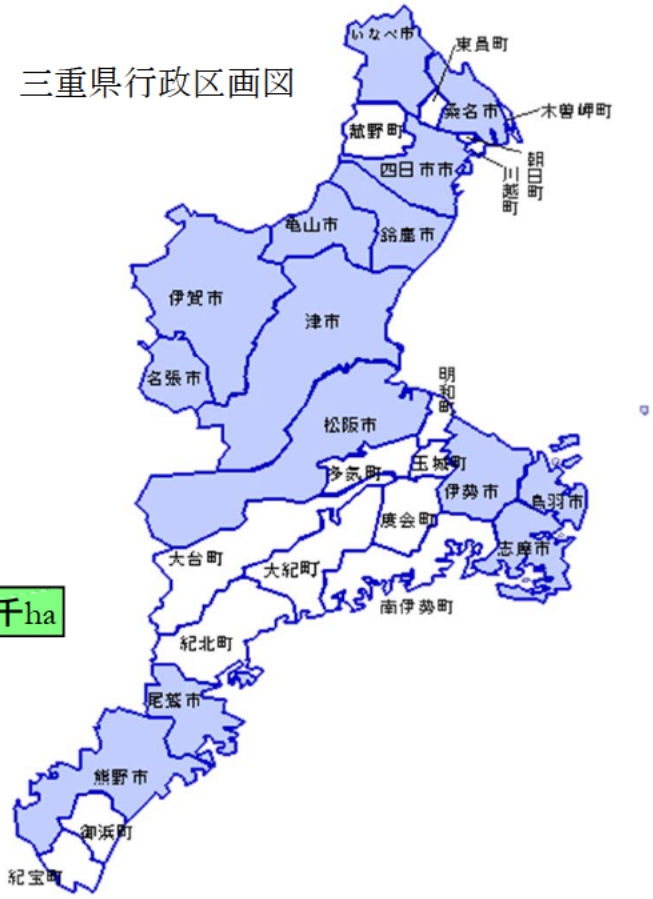
位置・面積

三重県は、日本列島のほぼ中央、太平洋側に位置し、東西約80Km、南北約170Kmの南北に細長い県土を持っています。

総面積578千haのうち森林が373千haで64%を占めています。

また、海岸線の長さは全国8位の1,105Kmです。

三重県行政区画図



14市15町　面積578千ha

地　形

北中部には、伊勢湾に沿って伊勢平野と呼ばれる低地が広がり、その西側に海抜700mから1,200mの鈴鹿山脈や布引山地などが南北に連なっています。また、布引山地の西側には伊賀盆地があります。

県中央を流れる櫛田川に沿った中央構造線の南側には、台高山脈があり、大台ヶ原山の一峰、県内最高峰1,695mの日出ヶ岳を中心に紀伊山地が形成されています。また、熊野灘の海岸線は、屈曲に富むリアス式海岸が発達しています。

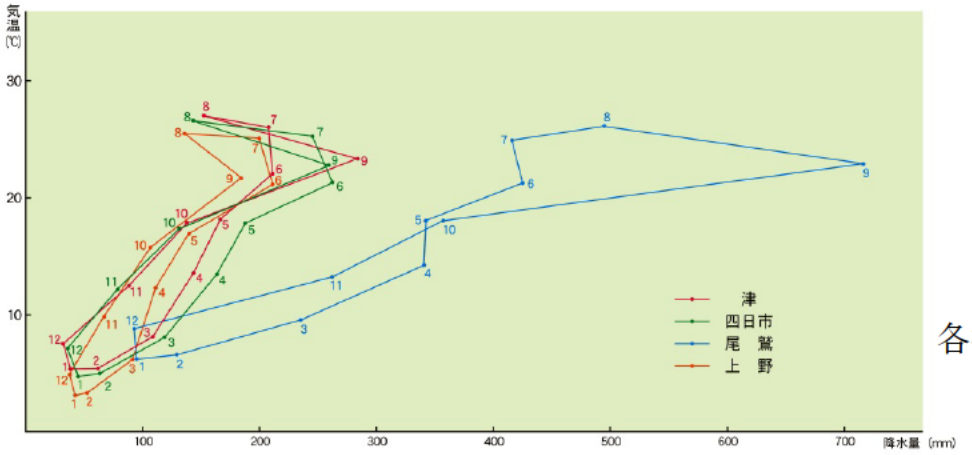
三重県の地形

気　候

伊勢平野は、南北に長く広い平野で、年平均気温は全般に15℃前後、年平均降水量は1,800～2,000㎜で一般に温和な気候です。

熊野灘沿岸は、紀伊山地が北西の季節風をさえぎることや、沿岸を暖かい黒潮が流れていることから、県下では最も温暖で、特に、尾鷲から大台ヶ原山系一帯は我が国屈指の多雨地帯として知られ、尾鷲の年降水量の平年値は約4,000㎜です。

伊賀盆地は、1月の平均気温は3℃で、県内では最も寒さの厳しい地域です。逆に夏の暑さは場所によっては40℃を超えた記録もあるように、気温の年変化や日変化が大きく、典型的な内陸盆地気候です。年降水量は1,300～1,500㎜で県内で最も雨の少ない地域です。



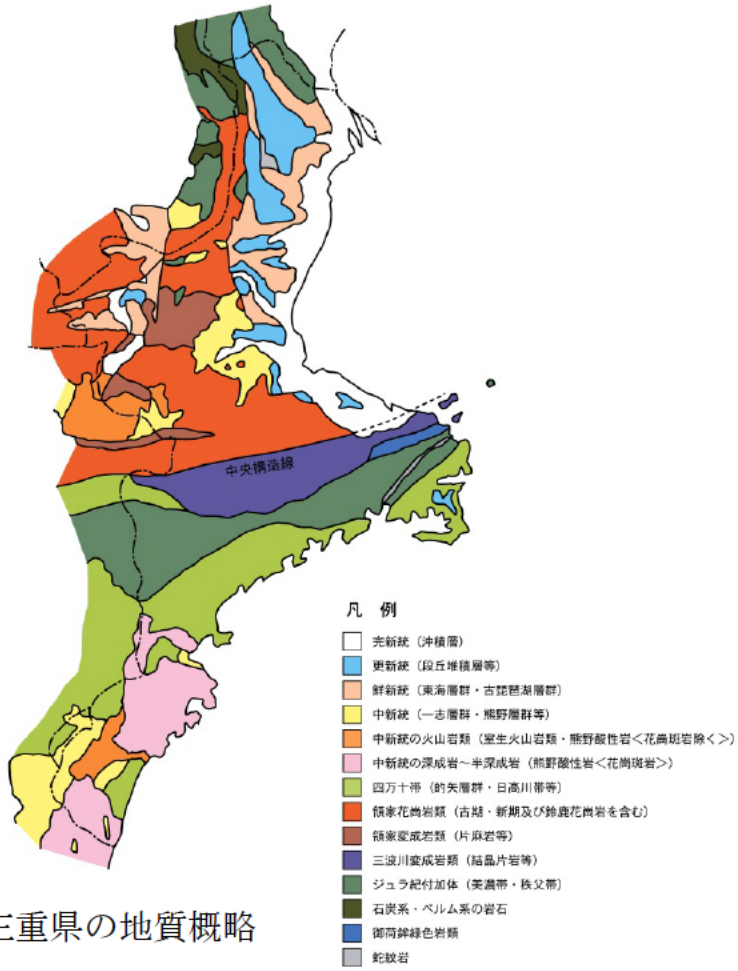
各観測地のクライモグラフ

地　質

三重県の地質は、その中央部を東西に走る中央構造線により、南側の外帯と北側の内帯に分けられます。

外帯では北側から、三波川帯・秩父帯・四万十帯と呼ばれる地質帯がほぼ東西方向に帯状に延びて分布し、南部では熊野酸性岩が四万十帯に貫入して分布しています。

内帯では外帯のような帯状の分布は見られず、中央構造線の北側から御在所山付近までは領家帯が分布しています。西部の香落渓付近には室生火山岩類が分布し、鈴鹿山脈の東部から南部にかけては、第四紀の段丘堆積層や東海層群、一志層群などが分布しています。



三重県の地質概略